第５回　中間市学校施設再編基本計画策定委員会議事録

●日時 令和３年10月29日（金）　16：00～17：30
●場所 中間市役所別館３階特別会議室
●出席者 10名
【委員】
内田　晃（北九州市立大学地域戦略研究所　教授）
下田　章人（底井野小学校PTA会長）
末次　公子（中間南中学校教諭）
長野　幹夫（底井野校区まちづくり協議会会長）
玉井　了（中間東校区まちづくり協議会会長）
山中　栄夫（中間校区まちづくり協議会会長）
池田　久紀（中間北校区まちづくり協議会会長）
松﨑　英人（中間南校区まちづくり協議会会長）
髙柳　みさ江（中間西校区まちづくり協議会会長）
靏　浩二（福岡県教育庁北九州教育事務所主幹指導主事）
【事務局】
船津　喜久男（教育部長）、北原　鉄也（教育施設課長）、森　秀輔（学校指導課長）、
山口　研治（教育施設課計画係長）、浅田　未紗都（教育施設課計画係）

●欠席者 ３名
和田　朋子（中間南中学校PTA会長）
楫山　美穂（中間北小学校校長）
小野　篤志（中間東中学校校長）

●議事次第
１　開会
２　議題
　　将来の学校のあり方について　～現在そして未来の学校の方向性～
３　その他
　　次回の開催予定について　令和３年12月21日
４　閉会

●議事録

事務局）　皆さま、こんにちは。定刻になりましたので、ただいまから第５回中間市学校施設再編基本計画策定委員会を開催いたします。

委員の皆さまには、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が懸念される中ではございますが、当策定委員会にお越しいただき誠にありがとうございます。

今後も委員会運営につきましては、感染症対策の上、実施してまいりたいと考えておりますので、ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本日は傍聴者１３名が入室されております。

なお、本日から事務局の一員として、中間市教育委員会学校指導課長、森秀輔が出席しております。よろしくお願いいたします。

事務局）　学校指導課、森でございます。よろしくお願いいたします。

事務局）　今回の策定委員会は、第４回委員会でのご意見を踏まえ、将来の学校のあり方として、まずは、地域の実情に適した将来に渡って持続可能な学校規模に焦点を絞り、委員の皆さまからご意見を賜りたいと考えております。

また、今回の委員会の開催にあたりまして、委員の皆さまには、事前の意見聴取にご協力をいただきありがとうございました。本日の資料には、事前にいただきましたご意見を整理し、資料としてまとめております。現在そして未来の学校規模のあり方について、皆さまから忌憚のないご意見をいただき、現在そして将来の子供たちが学び、生活する教育環境の充実に向けて、まずは、小学校、中学校、それぞれの学校規模の方向性について、議論を深めることができればと考えております。

なお、本日の策定委員会は、１７時３０分までの約１時間３０分程度を予定しております。意見交換に多くの時間を取りたいと考えおりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、はじめに、お手元の配布資料のご確認をさせていただきます。

本日の配布資料は、次第、委員名簿、資料１「児童生徒数の将来推計について」、資料２「地域の実情に適した将来に渡って持続可能な学校規模の検討について」、資料３「会議スケジュール」となっております。配布資料が不足されている方はおられませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、委員会の進行を内田委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

委員長）　皆さま、こんにちは。大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

早速ですが、議事次第に従いまして進行を務めさせていただきます。

本日の議題は１つでございます。「将来の学校のあり方について」事務局から説明をお願いします。

事務局）　はい。それでは、資料１「児童生徒数の将来推計について」をご覧ください。

児童生徒数の将来推計につきましては、これまで、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口」を参照し、２０１５年国勢調査を基準値とした児童生徒数が最も減少する場合の各小学校別の推計をお示ししてまいりました。今

回、委員からのご意見を踏まえ、将来推計につきましては、中間市学校施設長寿命化計画の児童生徒数の将来推計と整合性を図り、各種施策の実施や出生率の改善などを考慮した最も平均的な将来予測にて算出した推計を基に各学校の児童生徒数を算出し、その数値を今後議論を行う際の基礎数値といたします。

２ページをご覧ください。

２０１０年の国勢調査を基準値とした各学校の２０６０年までの児童生徒数の将来推計をお示ししております。これまでの委員会におきまして、お示ししておりました２０４０年の推計値につきましては、赤枠の数値に改めておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、資料２「地域の実情に適した将来に渡って持続可能な学校規模の検討について」をご覧ください。

１ページから５ページにつきましては、これまでの資料から学校配置を除き、学校規模にのみ焦点を当てた内容に改めた資料でございます。本日は時間の関係上、割愛させていただきます。

６ページをご覧ください。

本日の第５回委員会を開催するに当たり、委員の皆さまには大変お忙しい中、事前の意見聴取にご協力をいただきありがとうございました。

６と７ページには、皆さまからのご意見を取りまとめ、主な内容を掲載しております。

まず、学校再編の取組につきましては、教員や保護者に丁寧に説明をしながら、前に進めていかないといけない。小学校と中学校の同時の再編ではなく、学習面や部活動面、通学面などを考慮し、中学校を先行した再編がよい。充実した教員配置を行うという視点から学校再編を検討することが必要。学校の諸問題への対応や教育の充実のためには、適正規模の学級数を確保することが必要というご意見をいただきました。

７ページをご覧ください。

学校規模のあり方につきましては、小学校は２から３校、東部から西部への通学が自由に選択できるとよい。中学校は１校から２校。１校になると学習面などでメリットが大きい。学習面や生活面、部活動面など教育の中身に対応できる適正規模校の教員配置を念頭に置くとよい。小中一貫校については、今後さらに児童生徒数が減少した後に、先進事例を研究した上で検討すべきであるというご意見をいただきました。

８ページをご覧ください。

こちらは、各小中学校教務主任の皆さんと将来の学校規模について、意見交換を行った際のご意見を掲載しております。

将来の学校規模については、適正規模校の教員配置が必要。教育の内容は、学校の規模に応じて変わるものではく、規模に応じた手立てや手段、施設設備が必要というご意見をいただきました。

９ページをご覧ください。

第４回委員会終了後、委員の皆さま、各小中学校の教務主任の皆さまとの意見交換を行わせていただきました。そして現在では、各小中学校ＰＴＡ会長さんとの意見交換、各小中学校ＰＴＡ理事会での説明を進め、今後は、各小中学校の教職員の皆さまへの説明など、事務局といたしまして、学校再編の取組を丁寧に説明しながら、将来の学校のあり方を検討してまいりたいと考えております。本日は、これまでいただきましたご意見を学校規模という視点から整理し、将来に渡って持続可能な学校規模の案を小学校、中学校別にご紹介いたします。

まず、小学校につきましては、現在の６校を２校または３校の学校数に再編することが望ましいと考えられます。２校の場合は、例えば１校が過大規模となり、通学区域や自由選択制の検討、スクールバスの導入など通学方法の検討が必要となります。

また、３校の場合は、例えば１つが小規模校と２つが大規模校となりますが、数年後には学校再編を再検討する必要があります。

１０ページをご覧ください。

中学校につきましては、現在の４校を１校または２校の学校数に再編することが望ましいと考えられます。１校の場合は、大規模校となりますが、同教科の教員が複数配置され、運動系、文化系を問わず部活動が活発となります。２校の場合は、小規模校となり、同教科の教員の複数配置が困難であり、入りたい部活がないこと、数年後には学校再編を再検討する必要があります。

事務局といたしましては、今回のご意見を総合的に踏まえますと、まずは、学習面、部活動面、通学面のメリットから中学校を先行した再編が望ましいのではないかと考えております。そして、中学校につきましては、将来に渡って適正規模校の教員を確保することを最優先に考えると、現行の４校から１校への再編が望ましいのではないかと考えております。

また、小学校に関しましては、委員の皆さまからいただきましたご意見のとおり、現行の６校から２校または３校への再編が望ましいと考えております。

そのため、学校規模の案といたしましては、小学校２校と中学校１校の案と小学校３校と中学校１校の案が将来に渡って持続可能な学校規模ではないかと考えております。以上でございます。

委員長）　ありがとうございました。

ただ今事務局から、本日の資料の説明といたしまして、事前に委員の皆さまからいただきましたご意見のご紹介とそれを基にした小学校、中学校別の学校規模の案、そして、意見を基に総合的に考えた事務局としての学校規模の案として、中学校を先行して学校再編に取組み、現行の４校を１校に、小学校は６校を２校または３校に再編する案をご説明いただきました。

それでは、ただ今の事務局の説明及び学校規模の案につきまして、委員の皆さまからご意見等をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

委員）　小学校の再編案の図ですが、２～３校の場合、小規模校をあえて表示しておりますが、どういう意図で小規模校を作るのですか。３校の場合は３つに、２校の場合は２つに均等に分けて人員を配置すればいいのではないかと思うのですが、わざわざ小規模校を１校入れる意味合いは何ですか。

事務局）　今のご質問にお答えいたします。小規模の学校については、既存の施設を改修して使っていくという考え方もできることから、そういう表示の仕方をしております。現在の学校規模で使えるものはできるだけ使っていきたい。委員からも日頃から言っていただいていますように、できるだけ経費をかけずに効果を大きくしたいというところから、そういう考え方が出てきております。

委員）　小規模校のところの数字が、２校の場合、３校の場合で１６０人となっていますよね。今の既設の施設を流用するという形になると、私の見方としては、これは底井野を意識しているのかなという気がするんですよ。他の学校ではこの数字にはならないはずなんですね。私の一方的な見方かもしれませんが、底井野にこだわっているのではないかなと思って、皆さま方もどういう見方でこの表を見ているのかということを聞きたいんです。

事務局）　確かに、そこを意識したものの一部でございますので、現在の規模があるのであれば、そういう形になろうかと思っております。

委員）　均等分配するということも可能なんですか。２校の場合は１，６００人を８００人と８００人にする、３校の場合は５００～６００の３校にするとか、そんな形もできるということですか。それともこの資料に載ってある形でいこうと決めているのですか。そこを聞きたいんです。

事務局）　この委員会の結末ですけれども、決して案１つに絞っていただくものでもありませんし、最終的には市として決定をしていくことになるわけですから、この委員会の中でいくつかの案を出していただいて、それを検討の土台にして、市として決定をしていくということになります。例えば３校にするのであれば、先程お話したように小規模と大規模の２校となるのか、同一規模が３校になるのか、そういったことも今後検討していきます。

委員）　分かりました。ありがとうございました。

委員長）　今の数字だと確かに１６０人と１，４００人、或いは１６０人と７００人と７００人という形になっておりますので、底井野小学校の今の場所かどうかは別として、川西に１校、川東に１校、或いは川西に１校、川東に２校という、なんとなくそういうバランスなのかなと。ただ、例えばと書いてありますので、数値的にはこのように表示されていますが、２校にした時に川西に２校という案も当然あるのではないかと思いますし、小学校３校の場合も川西と川東で１校２校なのか、０校３校なのか、３校０校といった川西と川東で校数が逆転するということはないと思いますが、そういう点も含めてゼロベースで検討していただくことになると。今は事例として１６０人になっているので、どうしても２０４０年の底井野が１３０人と推計されていますので、底井野１３０人とフリーで通学する３０人くらいというような

イメージで１６０人という数字が出てきているのかなと思います。あくまでも例えばの事例として出していただいています。ただ、小規模校、大規模校、大規模校の３校とか、小規模校、過大規模校の２校というのは少しアンバランスではないか、なんで適正規模にならないのか、そういう議論はあるのではないかなと思います。

他いかがでしょうか。

委員）　統計資料なんですが、まずは１ページ目ですね。パターン（イ）を前提とする形なんですけれども、私自身の考えは、パターン（イ）を基にしてもう少し計算した方がいいのではないかと思います。１つは２０２０年の人口総計、今の中間市の２０２０年３月末時点では４１，２８７人なんですよ。すでに資料と違っている。２つ目は、前回も言いましたが、２ページ目なんですけれども、（イ）案に基づいて計算しているのですが、２０２０年の総人口４１，２８７人を基にして考えた方がいいのではないかと思います。実際は教育委員会が非常にいい資料を作られています。１つは以前送っていただいた資料、２０１９年の０歳から５歳がそのままの通学区域で就学した場合、人数がどれくらいになるのかという計算をされています。できましたら２０２１年現在の数値で計算してもらいたい。どうしてそれを言うかというと、前回、２０４０年の国立社会保障・人口問題研究所のデータで、底井野小学校８０人という話が出ましたがそんな馬鹿なことはないと言いました。私も底井野校区の関係の総人口、それから現在の０歳から５歳が底井野小学校と中間中学校に就学した場合に何人になるのか計算しております。資料の底井野小学校のところを見てほしいのですが、２０２１年、これは実際は１７３人。私の計算では２０２７年までしかないのですが、最新は０歳から５歳が就学した場合１６２人になるんですね。そういう数字をできれば、前回、市の教育委員会もそういう形で出していますので、各小学校、各校区が増えているのか減っているのか、どういう推移をしているのか、一番近い数字を持ってきたらいい。それを基にして、どの学校をどう再編したらいいのかを考える基礎資料とする。私が前回ご指摘した、国立社会保障・人口問題研究所のあんな資料を当たり前のように使って、底井野小学校が２０４０年には８０人になるなんて、そんなばかなことはない。それを基にした統廃合を考えるなんてつまらないという気持ちでやっておりますので、是非、せっかく市が２０１９年度の０歳から５歳の各校区内できちんと計算されていますので、２０２１年の数値で資料を出してほしい。底井野校区はそういう資料を作って私は意見を言っています。他の校区も出てくると思いますので色々な検討ができると思います。以上です。

委員長）　はい、ありがとうございます。まず、２０２０年の総人口は今言われたのは１月の人口ですか。

委員）　違います。

委員長）　何月ですか。

委員）　３月末です。

委員長）　それは住民基本台帳ですか。これは国勢調査なので、２０２０年の国勢調査は何

人ですか。そちらの方がより近い数字になると思います。２０１０年も２０１５年も１０月１日の国勢調査の人口なので。住民基本台帳は実際の人口ではないので、どうしても大きく出てしまいます。

事務局）　２０１５年の国勢調査が４１，７９６人という数値となっております。

委員長）　２０２０年はどうですか。

事務局）　すみません、今、手元に２０２０年の数値がございません。

委員長）　国立社会保障・人口問題研究所の数値がでたらめだというご意見がありましたので、どれだけ乖離しているのかを確認してください。確かに国立社会保障・人口問題研究所の数値は各年において少なめに出る傾向があります。どれだけ乖離しているか分かれば、２０４０年は本当はこんな数値ではないのではないかというご指摘だったので、そのご指摘に回答できるのではないかと思います。

事務局）　すみません、ありました。令和２年の速報値で２０２０年が４０，３７３人です。

委員長）　やはり（イ）の推計は１，０００人くらい少ないんですね。委員はそういうところをご指摘されているのかなと思います。前回は２０４０年が８０人という推計が出ていましたが、それを集計し直して、１３０人、小学校全体で１，５８５人という推計が出ております。これは新しくバージョンアップしたという理解でいいですか。

事務局）　はいそうです。

　できましたら、私が冒頭で申し上げましたとおり、この数値で今後議論を進めさせていただけたらと思います。１つは底井野小学校については、今の児童生徒数を維持したとしても、１学級に変わりないというところがありますので、規模数の比較と申しますか、検討材料になるのではないかと思いまして、この数値を出しております。どうかこの数値でご理解いただけたらと思います。よろしくお願いします。

委員）　２０３０年の推計くらいしか出ないのですが、今、１６０名くらいという推計が出ておりますけれども、それを底井野校区の人口や住宅の着工数など色々な物を考えますと、ある程度維持するのであろうと考えています。１３０人という数値については異論はありますけどね。８０人よりはいいと思います。

委員長）　国立社会保障・人口問題研究所の数値というのは当時だされたものなので、市の人口が２０６０年に１９，０００人になるというのは非常に厳しすぎると言いますか、市は色々な施策を講じて、それを上向きになるような施策を展開しているので、今のこの推計だと２０４０年に３１，３００人、これが妥当なところだということで、それを按分すると、児童数は１，５８５人、生徒数は８４５人になると、そういう推計ということで、これはきりがないですね。ある程度、どこかでこの数字としてやっていかないといけないので。

委員）　先に進まない。

委員長）　そうなんですよ。ですので、市が出された数値で議論したい、その上で小学校や中学校の適正規模を踏まえながら、まずは数ですよね、小学校を何校、中学校を何校にするという議論をしないといけないですし、どこに配置するかというのはまた

別として、どのような数にしていくのか議論をしないといけない。ということで、今日出ているのが資料の９ページと１０ページ。これに至るまでに、６ページからは委員、或いは各小中学校の教務主任の先生からの意見としてまとめて、これを踏まえていくつかのパターンを準備していただいています。この委員会は１案に絞るというわけではないので、例えば中学校が１校、小学校が２校、３校ならその組み合わせ、たすき掛けのような形で何パターンか出てくるということでございますので、それぞれで見ていただいて、メリットやデメリット、ご感想でも構いませんので、お出しいただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

委員）　出された資料を基にしか私たちは議論ができないので、先程の数字のこともそうですが、資料はきちんとしたものを出していただきたいなと思います。

資料に関しての質問です。６ページと７ページに各委員さんからの主なご意見ということで載っており、委員さんに個人的に回っていただいた時に述べられたことだと思いますが、私は中学校のことしか分からないですが、７ページに中学校１から２校がよいという意見が４個出ているんですよね。この理由を詳しく教えていただきたいなと思って。私は中学校の教員ですが一言も言っていないし、１校には反対なので、もし良かったら理由を教えていただきたいなと思います。そのまとめとして、下のところに、１校になると学習面のメリットが大きいとありますが、私は分かりません。教えてください。

それから、適正規模の学級数を確保することと資料の色んなところに出てきていますが、是非、小学校と中学校は分けて考えていただきたいと思います。委員会開催までの間、小学校の先生とも中学校の先生ともだいぶ話をしたのですが、小学校はやっぱりクラス替えとかも含めて１２から１８学級の適正規模の学校がいいとおっしゃる先生が、私が聞いた中でも多いです。でも、中学校は違います。是非、適正規模の学校数ということで一括りにしないでほしいです。

それから、８ページのところの教務主任からの意見ということで、以前、学校指導課の森先生に、教務主任１０人の意見ということを押さえた上での会にしてくださいと私はお願いしたつもりです。教務主任が集められることに関して、職員会議が開かれたことは一切ありません。ですので、１０人の個人的な意見だということで会を開いてくださいとお願いをしました。それが、こういう風に資料に教務主任の意見が載った時に、これが教員の意見なんだと思われるのは、それは違うかなと思います。これは意見です。お願いします。

それと、教務主任の意見の３つ目の丸のところに、人権教育はカリキュラムがしっかりしていれば学級数や学校規模は関係ないと書かれていますが、もし、こういう発言をした教員がいるのであれば、私は学校の中で議論しないといけないと思っています。人権教育はカリキュラムだけではなくて、私は前回から言っているんですけれども、朝から夕方まで全ての教育課程で行われるのが人権教育だという風に中間市で研修も確認もしていると思います。もし、こういう発言があったのであれば、そこで議論すべきだし、私は資料に載せるべきではない発言だと思います。

それと、今の資料に関してなんですが、前回からの宿題というか、私は中学校の教員なので教育の中身のことを言います。まち協の方は、地域のコミュニティとしての学校のあり方を言われます。保護者の方は保護者の方でその立場で言われます。施設課の回答は費用のこととか、子供の数とか、学校の適正規模のことを言われますよね。ただ、私はここから波及する色んな問題があることを問いたい。だから周知をしてくださいということと、時間をかけてゆっくりしてくださいということと、子供の関わることなので教育の中身についてしっかり議論してくださいということを言ってきたつもりです。教育の中身に関しては、大規模校になってスクールバス登校になった時の不登校の対応だとか、或いは、今は特別支援学級の子供が交流学級の子供と関係が近いんですね。それがどうなっていくのかとか。前回は、そのことをお伝えしたのですが、それに対する回答をいただきたいのと、あと周知をするということに関しては、先程、各学校を回ってＰＴＡの理事会で説明をされたという風に言われましたが、たったの３分間の説明でした。あれは私は説明ではないと思います。これから繰り返し説明いただけると思いますが、お願いします。

それから、時間をかけてゆっくり議論すべきだと言わせていただいたんですけれども、６回から７回に１回増えただけです。これがゆっくり議論することなのかと疑問に思います。お答えできるだけで構いませんので、お答えいただけたらと思います。以上です。

事務局）　最初の方に言われた、中学校は１校がいいのではないかという文言が記してあることについては、当然、委員の皆さんを回らせていただいて色々とお話をした中での言葉になってくるのですが、我々の方から委員さんに説明させていただいた中で、中学校の場合、現在の１学年あたりの学級数が、中間中学校が２学級、中間北中学校が１から２学級であるということが１つあり、学級数から累進的に発展する教員の数が非常に少ない。１つの教科の先生が複数の学年を持たないといけない。これは適正規模でもあるんでしょうけれど、複数学年を持つことで、授業の実数よりも教材作りに追われるという話もお聞きしました。教育の中身からずれていたらご指摘ください。また、特別支援学級の担任の先生が全学年を見ながら特別支援教育にも携わらなければいけない状況も発生している、それと生徒数の少なさから部活動の成り立ちが非常に困難になっているという話も聞きました。先程私から説明もさせていただきましたが、仮に２校になったとしても、いずれ近い将来に１校への議論をしなければいけない、今と現状が変わらないような諸問題も出てくるのではないだろうかと、そういう話を委員、まち協の方とさせていただきながら１校案を記させていただきました。

あと最後の方にありましたが、ＰＴＡの理事会を回らせていただきまして、説明の時間が３分とありましたが、時間がどうかということよりも、その後、ご意見ご質問等をお受けする時間を作らせていただきましたが、なかなか皆さんからご発言がありませんでした。これに関しては、まだ周知ができていないのかなということは確かにございました。理事会の場所でなかなか皆さんも発言しにくいのかなと感

じたところもありまして、決して我々が時間を割愛したわけではないと思っております。夜の時間にもかかわらず皆さんお集まりされている所に、我々も出向かせていただいてご説明したつもりなんですけれども、申し訳ございません。

委員長）　まだご回答いただいていない部分もありますので、今の時間に整理していただけたらと思います。

私の方から委員にお聞きしたいのが、小学校だと１２から１８学級は適正規模であると。ただ、中学校は適正ではないのではないかとお話がありました。中学校の適正規模はこれより多いのか少ないのか、具体的な数値をお聞かせいただきたい。あと、資料の７ページに中学校が１校になることで学習面でのメリットが大きいとあるが、そうではないのではないかと、逆にデメリットがあるというご指摘だったと思います。１校のデメリットを具体的に補足していただけたらと思います。よろしくお願いします。

委員）　私もこの間、調べさせてもらったんですが、例えば、香春思永館を学校訪問されて映像を流していただきましたよね。香春思永館は義務教育学校なのですが、全校生徒が７３０人なんですよね。規模が小さい小中一貫校なんですよ。結構小さいんです。福智町の義務教育学校も後期課程が２１７人。これも義務教育学校なんですが、義務教育学校になった後期課程が、中間南中学校よりも規模が小さいんですよね。今、中間市がしようとしている、中学校の生徒９００人を１中学校に集めることと全然規模が違うということを皆さんにご理解いただいて、話を進めた方がいいかなと思います。小中一貫校とか義務教育学校という言葉ではなくて、香春町と中間市が進めようとしていることでは、規模が違うということです。色んなところの学校の先生にお伺いしていて、大規模校に出張に行った時に、校長先生が規模が大きすぎて子供の命を守れる自信がないと言っていました。詳しくお聞きすることはできなかったけれど、私はなんとなく想像ができます。人権教育は中間市の土台だと前から言っていますが、大規模校だと成立しにくいんですよね。先日、中間南中学校出身の音楽をしている方なんですが、中間南中学校の文化祭に来ました。教え子なんですが、その時、私は初めて知ったのですが、小学校と中学校の時に家に帰ってまずやっていたことが浮きのような物を磨くことだった。それは小さかった頃は分からなかったけれど、後から分かったのがそれが自分たちの仕事だったんだと言うんです。家に帰ったら仕事をして、それから宿題をしてという生活を、分からないうちから自分たちはさせられていたと子供たちの前で話してくれました。私が中学の時に彼らの担任をしていて、そのことを知らなかったんですよ。それが５学級だったんです。だから、今の中間東中学校が３から４学級なんですが、３学級から４学級にいた先生が大規模になったら、自分の学級は守れるけれど、学年のどこかで生徒指導が起こった時に学年全体で関わることが難しいと言っていました。それが、大規模校と小さくなることの違いです。とても大事なことだと思います。

委員長）　そうすると、具体的には１２学級以上１８学級以下が適正規模と資料に書いてあるけれども、それより少ないということですか。

委員）　そうです。それで、中学校は１校となんとなく結論を持っていっているのかなと思いますが、教職員のアンケートをしましたよね。そのアンケートで、中学校は１学年が３学級という意見が一番多かったんですよ。それなのに、なんでこういう風に最終的には１校案になっていくのかなというのが疑問です。

それで、資料の２ページに２０２０年は中学校が９３０人、２０４０年が８４５人とありますが、２０４０年の数字を中学校３校と考えて３で割ったら、２８１人なんですよ。これをまた３学年で割ったら１学年が９３人になります。９３人ということは１学年３学級なんですよ。だから、私は中学校は３校がいいなという風に思っております。

委員長）　１校になるデメリットばかりを言われていましたが、それは逆に大規模校にデメリットがあるということだと思います。

委員）　デメリットについては、私は大規模校を経験したことがないので、大規模校の先生の話しか分からないですけれども、それは前回お話ししました。スクールバスのこととか。生徒指導で子供と話し込みをしたいのにスクールバスの時間があるからできないとか。デメリットはたくさんあると思います。

委員長）　はい、ありがとうございました。委員は、中学校は３校であるべきだと、適正規模というのは、資料２の１ページの表の数よりももっと小さいイメージがあったということですね。２０４０年の中学校の生徒が８４５人なので、これを３校で割って、更に３学年で割ると、１学年３学級になるという具体的な数値をお示しいただきました。

最初に委員から言っていただいたご質問がたくさんありますので、事務局も整理できていないかもしれませんが、ご回答いただいていない部分について何かありますか。

事務局）　教務主任からの意見のことについてご指摘がありましたので、可能な範囲でご回答したいと思います。まずは教務主任からの意見を学校の意見と捉えないでほしいというご意見については、勿論その通りでございます。そもそも教務主任は学校全体の教育課程を管理しながら、一番、実働面の中心となって学校全体を見渡している立場です。例えば学級担任のように自分の学級１つや自分の学年を見るというだけではなくて、学校全体を見ていく時に、今の学校でどういう課題を感じているか、またどういう状況になったら、より望ましい教育活動ができるのかという視点が持てるのかなという点が１つ。また学級担任も経験しており、長く経験してきた中での教務主任という立場でございますし、年齢的な部分で管理職の手前の段階であるという点も含めまして、総合的に、まずは教務主任の先生方に意見を聞かせていただこうということで、この会を持った次第であります。

人権教育の部分についてもご指摘がありました。確かに、少し言い回しが乱暴な感じもしますが、学校規模が関係ないということではなくて、この会の発言は私も一緒に聞いておりましたけれども、小規模であろうが大規模であろうが適正だろうが、どんな規模になっても、例えば今在籍している学校でも、そこが小規模だから

この学校に行ったということではないんですよね。今、この学校に在籍しているから、この学校でどんな教育活動ができるだろうかといったところで、それぞれの先生方は教育活動の工夫をされてきております。人権教育は、今委員がおっしゃったように全体を通じて行っているものです。１つの授業で終わるものでもないし、学校の朝から帰りまで全ての教育活動を含めて子供たちは人権感覚を汎用していくものです。そのような活動は、小規模には小規模の良さが勿論あります。大規模では大規模で子供たちが多様な人と関わる中で育まれていくものも当然ございます。やはりそれぞれに長短はあるんですよね。やりやすい、やりにくい活動はございますが、それぞれの規模でやっていくことは必要であろうと思います。関係ないというこの表現はかなり乱暴だと私も感じますが、発言された先生も、その規模に応じてできる限り工夫してやっていくことができる。小規模だから人権教育ができる、大規模は人権教育ができないということはないですよという風なニュアンスで発言されていたと理解しております。以上です。

委員長）　はい、ありがとうございます。その他、事務局からありますか。

お答えできる範囲でということでしたが、委員からは、ここを答えてもらっていないとか、ここは答えてもらいたいというところはありますか。

委員）　いつかお答えいただけたらいいですけど、前回から言っていた大規模校になった時のデメリットをどういう風に解決していくのかが見えない限り、大規模校の導入は考えるべきではないかと思います。先程言った不登校の問題とか、スクールバスの問題等ですね。

委員長）　はい、分かりました。それについては事務局はいかがですか。

事務局）　デメリットの部分は大変大切なことだと思いますので、そのデメリットが生じないように、規模に応じた手立てを色々と考えていきたいと思います。

委員長）　もう一回、次回に向けて整理してもらった方がいいと思います。

委員）　先程も申し上げたんですが、アンケートで中学校の教員は３学級が一番良いという意見が一番多かったんですよね。そのことはもう少し重視してほしいと思います。

それと、今回、（イ）のパターンで計算した時に、２０２０年から２０４０年にかけて、小学校は１６１人減る計算なんですよね。中学校は８５人しか減らないんですよ。それで、４中学校を１校にまとめようとしているというところも、現場や子供たちの様子を見ていると、私は怖いです。教員の適正数のことも言っていましたが、現在、県下で未配置が３００人いるんですよね。まずはそこからではないかと思います。大規模校だと教員が増えるからいいではないかという安易な考え方はすごく乱暴だと思います。

委員長）　そうはならないということですか。３００人の未配置とはどういうことですか。

委員）　県下です。

委員長）　余っているということですか。

委員）　配置されていないということです。

委員長）　配置されていないというのは教員が足りていないということですか。

委員）　そうです。

委員長）　大規模校になったからといって、適正に配置されるかどうかの確約はないということですね。いずれにしても、デメリットが色々ある。勿論、１校になることによるメリットもあると思いますが、中学校の先生は３学級がよいが最も多いというエビデンスがどちらかというと消えていて、１校がよいという意見の方が多く出てきているということですが、これだけをもって１校というのは少し乱暴なのではないかというご指摘だったので、そこももう少し精査した方がいいと思います。３校というご指摘もありましたので、それも含めて。資料の５ページには小学校３校、中学校３校という案が載ってあります。西部の中学校は１学年２学級、東部の２中学校は１学年３学級ですね。今委員が言われた３校です。このあたりが落とし所ではないかというご指摘だったと思います。これはこれでメリットもありますし、デメリットもあります。そこは、この委員会の中で総合的に判断していかないといけないということになるかと思います。勿論、中学生のため、中学生が望むもの、中学校の先生が望むもの、地域の方が望むもの、或いは施設を整備する側の市として望むもの、色んな意向や思惑があると思います。それを踏まえて総合的に委員会で話していかないといけないということだと思います。

他いかがでしょうか。

委員）　まず、私は、中学校１校が望ましいという意見を述べました。そして、小学校と中学校のどちらかを先に再編するのがベストではないかと思います。と言うのは、小中同時に再編するのはかなりエネルギーがいるので、見落としもあるのではないかと、乱暴ではないかなという印象があったので、基本的には、事務局が提案されている中学校から検討したいという意見には賛成です。それから、中学校１校ということについて、私が賛成した根拠となったのは、教員の配置です。そこで、事務局にお尋ねしたいのですが、今、臨時免許で教科を受け持っておられる先生がいる中学校があるのかどうか。それはどのくらいの数なのか。把握されているかどうか。教えていただけませんか。例えば１校になった時、子供の数が増えるから教員数が増えますよね。そうした時に、教科を担当する教員の十分な配置が考えられると思います。不登校問題もありますが、それはまた別として対策を打っていかなければならないと考えておりましたので、そういう点から意見を出しました。以上です。

事務局）　臨時免許の教員については、小学校はもとより、中学校も、具体的な数はつかんでいませんが、確実におります。

委員）　正規ではなくて臨時免許の教員でやられているということですよね。その数がどのくらいかは分からないが、実際にそういう学校はあるということですね。それが大規模校になれば解消できるのではないかなと考えたんです。

委員長）　現場の感覚としてはいかがですか。

委員）　大規模校になったら、同じ学年を２人で教えないといけなかったりするんですね。私は非常にやりにくいです。

委員）　かえって切磋琢磨できるのではないですか。

委員）　いや、それはやりにくいです。一番、３学級がやりやすいというのは先程も話したんですが、３学級だったら教員みんなで生徒に関わることができるんです。３学級っていったら生徒数が９０人とか１００人とか１１０人とかそれぐらいなんですよね。クラス替えも普通にできる。小さすぎないから、皆さんが小規模校で心配されているような、高校とか行った時のこともそんなに心配しなくていい。生徒指導とか、色々と抱えている子供に対して、中学校は教員みんなで関われる。子供にとって学校は確かに教科指導も大事かもしれないけれども、生活の場なんですよ。一日の半分を過ごしますから。そこが、私が色々言っていることの大前提です。という理由で、３中学校、３学級ということをお伝えしたいです。

委員）　質問してよろしいですか。３学級くらいが統一した形で面倒が見れるからいいとのことですが、変な質問かもしれませんが、先生の特性があって、生徒から好かれている先生、好かれていない先生がいますよね。そういう点で見た時に、私は、１人の先生が生徒全員を教えるという形ではなくて、２人で教えることによって、色々その辺の欠点も出てくるのではないかと思いますが、そんなことは関係ないんですか。１人で教えれば生徒たちは満足して、学校としてもいいという意見になるのでしょうか。そこを聞かせてほしいです。先生も１人１人が完全ではないですからね。仮に、先生が悪いという意見がＰＴＡからあがってくることもあるでしょう。そんな時に先生方がどういう対応をするのかということを聞きたい。

委員長）　非常に答えにくい質問かもしれないですが、１人で教える２人で教えるというのは、２人で１学級を教えるというわけではなくて、どちらかの先生がどちらかの学級を教えるわけなので、それは結局一緒なんですよ。

委員）　一緒ですか。

委員長）　一緒じゃないですかね。生徒は先生を選べないわけですから。例えば数学はこっちの先生が好きだからその先生に習いたいというのは生徒は選べない。学校規模が大きくて同じ学年に２人の先生がいても、自動的にこの学級にはこの先生と決まるので、２人が１つの学級に数学を教えるわけではないですので、そこは一緒ではないでしょうか。

委員）　色んな話の前提として、生徒たちが喜ぶ学校とはどんなものですか。生徒が先生を嫌うのはあり得ますよね。そしたら、その生徒は学校について喜んでないということでしょう。大前提が壊れますよね。生徒たちが喜ぶ学校を作ると言いながら、実際にそれはできないということですよね。

委員）　それは勿論、教員に責任があることなんですが、どの規模の学校でも起こることです。

委員）　私が再度言いたいのは、３学級が非常にいいという意見は理解できます。では、４学級になったらできないということはないのではないかなと逆に言いたいわけです。２人の先生が２学級ずつ受け持つというやり方でも上手くいくのではないかなと思います。３０人３学級というのは理想的な学級編成でしょう。４０人になぜできないのかというのはあると思うんですよね。例えば４学級にせずに３学級にする

時に４０人を３学級にしたらどうなるのかという話も出てくるんですよね。そういう意味で、私の見方で話をさせていただきました。

委員長）　はい、ありがとうございます。他ありますか。

委員）　はい。まずは事務局の皆さん、小学校や中学校に説明に来ていただきましてありがとうございます。自分が説明をお願いした時に、最初なので軽めにお願いしますと言ったので、時間に気を遣って短めにしていただいたのだと思いますが、そういったお話をしていたので説明が短く感じられたのかなと思います。保護者としては、市の方が来ていただいたということに対してやはり心象が違います。今までは色んなことに関して、説明が遅れているような気がしました。市が市民をないがしろにしたような感じがあったので、先にこうやって説明していただいたというのは、保護者としてはいい印象を受けています。是非、全部の学校を回れるのであれば、仕事が終わって遅い時間に大変申し訳ないのですが、またよろしくお願いします。事務局から説明があったように、自分たちも中学校の再編からと考えて、ＰＴＡの会長さんたちにもグループＬＩＮＥなどで話を聞いたりしているのですが、私の個人的な意見としては１校の中学校が望ましいのではないかなと思いました。私の認識というのも、現場の話を聞いて認識不足かなと思ったのですが、単純に、１校になった時に、部活動が思いっきりできるだろうなというのもありますし、先生方の負担も減るのではないかなと思っていましたし、何より、中間中学校とか中間北中学校とかは人数が少ないことに関して、子供たちが高校に行った時に馴染めない子がいるという話は聞いていたので、ある程度、たくさんの子供がいる中で過ごせるような、今のような１学級や２学級の学校よりも大きい規模がいいのかなというのが、正直、ここに来るまでの印象でした。ただ、県下でも８００から９００人前後の大きい中学校というのはほとんどないそうで、そんな中、大きい学校が中間市にできることが考えられないという会長さんもいらっしゃいますし、私の妻に聞いても、自分たちの年代の人が親になった時に９００人の生徒がいきなり集まったら先生が大変だから無理だという意見もありました。色んな人に聞いたら色んな意見が出ると思いますが、ここに来るまでは１校かなと思っていました。

あと、話が変わるかもしれませんが、中間市が、９月に学研教育みらいさんとＧＩＧＡスクールの件で、生徒の学びの具体化とそれを支える先生の働き方の改革のために、業務負担についての研究がスタートするという情報を見ました。例えば、これから１校にするとしても、２校にするとしても、ある程度まとまるので先生の負担は増えると思うので、業務負担を減らせるよう、事業者さんと考えていい方向に持っていけるのであれば、そういったところから色々意見を聞きながら進めていくのもいいのではないかと思いました。

委員長）　はい、ご意見ありがとうございます。

事務局）　ご意見ありがとうございます。今、最後の方にありました学研さんの件ですが、学校指導課が取り組んでおり、GIGA スクールスクール構想における授業内外での児童生徒の学びのあり方、或いは教員の働き方改革を支援する業務負担軽減の施策の

研究を目的としている実証実験だと話を聞いております。現在、そしてこれからも必要な取組みだと思います。そういうところに着目していただきありがとうございます。やはり、学校づくりにおいて、教育内容が変化していく中でニーズに対応できるような教員配置の観点、環境整備に努めていかなければいけないと思っております。

委員長）　ありがとうございます。他の委員さんもそれぞれのお立場から、どんな学校数がいいのか、ご発言いただけたらと思います。

委員）　私の個人的な意見なんですが、まず根本にあるのは、通いたい学校、通わせたい学校。そういう意味では、中間市の特徴を申し上げますと、大まかですが、南東西の校区は似通っていますし、北校区、中間校区、底井野校区と土地柄や環境が違います。そういう地域性に合わせた学校がいいと思っています。今、学校数の話をしていますが、その前提には学校区の割合も頭にあると思います。それを踏まえて、中学校が３校、小学校が４校というのが私の案です。これは、１つは委員が出された東校区の私案があって、それを頭に入れながら、どこをどう統合するのかを考えた上で出しました。中間市の特徴としてそういう地域性があるので、小規模校と中規模校と大規模校があってもいいと思います。なにも同じような学校を作らなくてもいいし、それを特徴として地域の活性化に生かして、中間市の発展に繋げていけばいいと私は考えます。ただし、これは私見ですので、最終的には保護者の方の意見に従います。

委員長）　ありがとうございます。今の６小４中を４小３中に、小学校を２つ減らして中学校を１つ減らすという意見でした。やはり地域性も加味しないといけない。例えば小学生は川を越えて通学するのはかなりハードルが高い。中学生は川を越えて通っていますが、小学生については今は現実としてそういうことをやっていないわけで、災害もありますし、地域性を考えないといけない。そして小規模校、適正規模校、大規模校がミックスしていてもいいのではないかというご提案だったと思います。ただ、児童生徒がそれを自由に選べるかどうかはまた別の議論で、やはりある程度、校区は守らないといけない部分ではあるのかなと。特に小学生が選ぶのは難しい問題なのかなと思います。

委員）　１つ付け足してよろしいでしょうか。おっしゃる通りなんです。地域で話を聞きますと、中学校は生徒が多い方がいいから底井野校区から引っ越したという話や、逆に底井野校区のような小規模の学校がいいから引っ越してきたという話を聞きます。前提には校区がありますけれども、外から見た場合はそれが中間市の特徴なので、良いところを作っていけばいいのではないかと思います。

委員長）　選べないという話を申しましたが、確かに引っ越せば選べるわけで、小規模校でのびのびと暮らしたいのであれば底井野校区に引っ越せばいいし、大規模校が良ければ他の校区に引っ越すだとか、居住地を選択する際の参考になるようなそういうバランスをとった配置もいいのではないかというご意見ですね。

他にいかがでしょうか。

委員）　学校の数について別の観点から考える必要があるのではないかと思います。事務局は新築することを想定されていますか。小学校が２～３校、中学校が１～２校ということですが、建設費用のことを頭に置いておかないと、新築することを考えたら、数が多いからいいということでもないと思います。そういう点から考えると、新築もいいかもしれないけれど、学校をリニューアルするというようなやり方をすれば意外とお金がかからなくて済むという形も取れるのではないのかなと。そういった費用面での観点からも考えないといけないと思います。

委員長）　勿論、これは市の予算が大きく左右してきますので、どういう風に作り込むかというところも試算することは非常に大事だと思います。ただ、リニューアルすることが安く上がるかというと、必ずしもそうではない現実も恐らくあるのかなと思います。むしろ高くつくといったケースもあると思います。メンテナンスで毎年余計にお金がかかってくるという場合もありますし、例えば売却益で新しい学校を建てるというシナリオも崩れてきたりします。ただ委員が言われたように、リニューアルして使うことが可能かもしれないし、古すぎて無理だという場合ももしかしたらあるかもしれませんが、学校数についてはそういった視点も含めて議論しないといけないというご指摘だったと思います。

委員）　将来の学校のあり方について私なりに２点ほど意見を述べさせていただきます。１点目は、今までの中間地域の皆さまからの貴重なご意見について、地域への郷土愛を強く感じて嬉しく思っております。２点目は、このまま人口減少が続き、現状維持ができないのであれば、小中学校の編成、合理化を図っていくことは大事なことだと思います。そして、子供たちにとって一番いい学校を目指して、一番メリットがあって、質を上げて、学力も上げて、競争心も養って、利便性を図ることが時代の流れではないかなと思っております。大きな学校というのはたくさんの体験もできますし、また色んな考え方をした友達や先生もいらっしゃいます。聞くところによると、４年前から中間市の小学校でしたでしょうか、成績が全国平均よりも上がってきたという情報を得ています。これは教育委員会の方や教師の皆さまのおかげだと思っております。私たちの時代はちょうどベビーブームの時で、８から１０学級ありました。マンモス校でしたから、その中でもライバル意識というか競争心、いい友達を見たりして自分自身を高めていくことができました。運動も勉強も、子供の未来のためにたくさんの出会いを作ることができるのではないかと思います。現在、中間市は色んな面で変わってきています。最近テレビのニュースで、認知症予防のための介護施設の実証実験とか、大手通信会社との連携でパラリンピックの選手が中間東小学校で特別授業をしたのを見て、中間市が発展していくような気がしました。そこで、是非、学校も良い学校を目指して、中間市に更なる飛躍をしていただきたいです。私自身は、中学校は１校でいいのではないかなと思います。最初に中学校を編成して、その後に小学校へと考え方を変えたらいいと思います。鞍手地区も中学校が１校で小学校もまた統合していく考え方のようです。中間市内の保育園の理事長と話したところ、やはり統合した方がいいのではないでしょうかと

いう意見でした。以上です。

委員長）　ありがとうございました。他にありますでしょうか。

委員）　先程言い忘れていたのですが、前々回の会議の時に委員が言われていて、中間中学校のＰＴＡからも意見が出ていたと思うのですが、保育園や幼稚園の、これから学校にあがってくる子の保護者さんにも詳しく説明をしていただきたいという要望がありましたので、考えていただけたらと思います。

事務局）　おっしゃることごもっともだと思います。この委員会で学校の状況を決める前なのか後なのか分かりませんけれども、やはり新しい学校を作るという面では、そういう意見も必要になってくるのではないかと思いますし、上司からも指示を受けていますので、機会を作ってやっていきたいと思っております。ありがとうございます。

委員長）　他にいかがでしょうか。

委員）　今回この委員会は、県教育委員会という立場で参加させていただいておりますけれども、これまで私自身は中間市の学校の方に勤務させていただいておりまして、なかなかどの立場で発言をしていいものか難しいところがあって、発言を控えていたのですが、県の状況から見てみますと、今日の児童生徒の減少、学校施設の老朽化、それから各自治体の財政問題等々を含めた時に、やはりどこの地域でも学校再編という話は大きなテーマになってきているような状況でございます。当然、メリット、デメリットを踏まえた中で、様々な意見がこれまでこの会の中でも出ていますし、恐らく他の地域の中でもそういう議論になっていっているんだろうと思いますが、きっとどれも正解であり、そしてどこでも懸念される不安事項であるのかなと思っています。ただ、確実に県内の状況、また、現在の学校教育を取り巻く状況を見た時に言えるのは、急激な社会変化であるとか、或いは求められる新しい時代の学校教育に汎用するためには、それなりの学習環境をしっかりと提供していくということは非常に大切になってくることではないかと考えております。私自身もオンライン授業とか、或いは１人１台のタブレットとか、勿論そういうものがいつかは来るんだろうなとは思いつつも、明日明後日のことではないだろうと思っていました。まさに一寸先、本当に予測できない時代になって、このように時代がやって来るとは思ってもいなかったところでございます。だから、こんなに早く新しい時代に直面するのは想定外だったのですが、やはりこのような時に、当たり前であったこととか、前年踏襲でやってきたこととか、そういったことが本当に必要なことだったのか、意味のあることだったのかということを今一度見直していく機会にしていただかないといけないのかなと考えています。国もコロナ禍で学校の持つ居場所、セーフティネットとしての福祉的な役割、これは今回のコロナの中で非常に大切だということが浮き彫りになり、その前提の上で変化する急激な社会に対応した学校のあり方を考えていく必要があるということは言われているところでございます。自分も県の勤めが終わったら中間市に帰れるのかなと思っているところなんですが、そうなった時に、やはり、他の地域と比べて中間市の子供たちに学習機会の

差が出ないような環境を与えていくという意味では、学校再編は進めていかなければいけないことだと考えています。以上です。

委員長）　はい、ありがとうございました。その他いかがでしょうか。

委員）　先日、Ｉターンや Ｕターンの授業をした時に、子供たちに、将来的に中間市を出て行こうと思うのか聞いてみました。ほとんどの生徒が出て行くと手を上げました。残りたいと言ったのはクラスで２人か３人でした。一回出て、また戻ってこようと思うか聞いたらほとんどの子が手を上げました。戻ってくるような中間市ができればいいなと思います。

ある生徒が進路学習の中でオンラインで企業紹介をしてもらったのですが、相手の企業の方に中間南中学校の紹介をしてくださいと言われた時に、打合せは何もしていなかったのですが、手を上げた生徒が、挨拶がいいですとか色々言っていました。その中で、みんな仲が良いですと言ったんですよ。これは、９００人もいる学校で、１学年が何百人もいる学校で言える言葉かなと。先程から私が言っている、３中学校の意味ですよね。という風に思いました。最終的に２０４０年まで８５人しか減らない中での一気に１中学校ということ、先程から言っているんですけど、それは重々考えていただきたいなと思います。しかも、今、学級の子供の数が１年生、２年生と段階的に減っているんですよね。中学校は４０人で除していると書いていましたが、３５人学級になる可能性も今後多々あるんですよね。そうなった時に学級数は今より増えるので、そんな中で考えていく大規模校なのかというところも併せてもう一度考えていただきたいなと思います。

あともう一つは、アンケート結果を踏まえて、教職員の意見を聞いてほしいということと、委員がおっしゃられたように、地域の親たちですね。親たちの意見を聞いていただきたいと思います。

委員長）　はい、ありがとうございました。今のご意見について事務局から何か回答することはありますか。

委員）　全国を見ていくと、確かに国の流れはあるかもしれないけれども、あえて小規模校を残して、それを呼び水にして若い親たちを呼び込んでいる自治体もあったりとか、そういう例もあるので、そのことも踏まえて考えていただけたらと思います。

委員）　前にも申し上げたのですが、私、団塊の世代なんですよ。中間中学校に通っていたのですが、私の時は１学級５０人、１０学級あって全部で１，５００人いました。受験戦争の時だったのですが、その中で色々なことを１から５クラス、６から１０クラスと分けていました。どのくらいを大規模校と言うのかはまた別ですが、昔と違うところもありますけれども、経験上、大規模校は推奨できないなと思っています。

委員長）　ありがとうございます。それでは、そろそろまとめに入りたいと思いますが、各委員からのご意見等のまとめの部分が少し実態と合っていないのではないかというようなご指摘もありましたので、改めてヒアリングするのか、また、アンケートが反映されていないといったご指摘もありましたので、その点も踏まえて意見のまと

めを修正していただきたいと思います。

それから学校の規模についてですが、やはり１校、２校、３校とそれぞれにメリットとデメリットあります。先程も申し上げましたように、先生方の理想とする形もあるし、地域の方が理想とする形もあります。そして行政が理想とする形、これは今後どういう風に持続的に運営していくのか、限られた財政の中でどのように新しい学校を作っていくのか、これも避けて通れないところだと思います。どれを天秤にかけるかというところで、いくつかの案をこちらとしては提示しないといけない。ひょっとしたら中学校１校という案と中学校３校という案が並列で出てくる可能性もあると思うんですよね。今、いただいたご意見を総合的に考えていくと、中間の２校というのが実はなくて、３校なのか１校なのかという議論も出てくる、そんなパターンもあるかもしれないですね。先程の委員のご指摘にもありましたように、どういう風に建物を作るのか、新しく作るのか、リノベーションして既存の学校を上手く使う形でやっていくのか、これは今後の学校運営をどういう風に持続可能な形に持っていくのか、つまり財政の面ですね。そこはかなり大きなウエイトで増えてくるのかなと思います。この委員会としては基本計画案としてまとめないといけませんので、そういうところも踏まえて、今日の意見を参考に、次回に向けて案をまとめていただくことが必要になってくると思います。事務局はよろしいでしょうか。是非そういう風に進めていただけたらと思います。

それでは、式次第のその他、次回の開催予定につきまして、説明をお願いできますでしょうか。

事務局）　それでは、こちらの資料３をご覧ください。

１ページ下段、前回の第４回策定委員会は、８月２７日に開催いたしました。

次のページをご覧ください。

第４回策定委員会終了後、小中学校ＰＴＡ連合会会長会での説明や教務主任との意見聴取交流会、底井野小学校、中間南中学校、中間中学校ＰＴＡ理事会での説明に取組み、本日の委員会を迎えたところでございます。今後もＰＴＡ理事会等にお邪魔し、学校再編の取組や進捗状況を丁寧に説明しながら、将来の学校のあり方の方向性をお示しする学校施設再編基本計画案の策定を進めてまいります。次回、第６回策定委員会は、１２月中旬ごろということで、年末になりますので、１２月２１日火曜日、時間は同じく１６時を第一候補として考えております。よろしければスケジュールの調整をお願いいたします。ここで、学校規模及び学校再編のスケジュール案をまとめ、今日の意見を踏まえた上での素案をお示ししたいと考えております。

そして、大変恐縮ですが、令和４年１月に第７回策定委員会を開催し、将来に渡って持続可能な学校規模案を盛り込んだ基本計画案の取りまとめを行いたいと考えております。

以上でございます。

委員長）　１２月２１日ということでございます。何かご質問等ございませんでしょうか。

委員）　すみません。パブリックコメントをされるということなんですが、このパブリックコメントの内容というのは、私たち策定委員には一回見せていただけるのでしょうか。

事務局）　はい。

委員）　それと、住民に対するパブリックコメント、教職員に対するパブリックコメントは計画はあるのでしょうか。

事務局）　パブリックコメントは同時にやります。これにつきましては、前回、委員さんの方から、まち協に行って説明して、そこから発信したらどうかとご意見をいただいておりますので、そういった行動も取りたいと思っております。

委員長）　パブリックコメントについては、従来型のパターンだと不十分だと思うんですよね。やはりこちらから積極的に出向いて行って、ＰＴＡの方、或いは教職員の方にお願いするということも仕向けていかないといけない、そうでないと不十分ではないかなと思いますので是非、ホームページで公開するというだけではなくて、よりアグレッシブなパブリックコメントをしていただけたらいいのかなと思います。よろしいでしょうか。

それでは、ちょうど１７時３０分になりましたので、これをもちまして、第５回中間市学校施設再編基本計画策定委員会を終了とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。